

武漢の春

玉井哲雄



武漢の春

はじめに

今度のCORVID-19の発生源が中国の武漢ということで、TVで武漢が取り上げられることが多い。2020/5/8にもNHKでBS1スペシャル「封鎖都市・武漢～76日間 市民の記録～」というドキュメンタリーを放送していた。このドキュメンタリーはよくできていたが、テレビに映る画像の武漢は、昔とまるで違って都会化しているという別の感想も持った。それで、1998年に家族で武漢を訪れた時の日記を掘り起こしてみることにした。

武漢大学教授の母国慶(Wu Guoqing)さんは1996年10月から1年間、中国政府派遣研究員として文部省から東京大学教養学部の玉井に受入教官の依頼があり、それを引き受けて来日・滞在した。それが縁で、Wuさんの方から私を客員教授に迎えたいという申し出があり、1998年に武漢大学を訪問して講義を行ったが、その際、家族も同行した。その後、2001年11月から1か月間、Wuさんの2度目の派遣期間があって、そのときも東大の私のところで研究を行ったといういきさつがある。なお、Wuという苗字は漢字で「母」と似ているが、日本の漢字では「毎」の下部のように上から下への線が真ん中で切れていない。それで以下では、名前はWuさんで通すことにしている。

1998年

3/20(金)

孝子と美季子とともに成田に向かう。曇り。風が強い。

上海に着いて、寒いので驚いた。みぞれが降っている。入国審査、武漢行きの国内線の搭乗手続きもスムーズにいき、みぞれの中、定刻に飛行機は離陸した。予定通り4時半頃、武漢空港に着くと、Wuさんが迎えに来ていた。ここも寒い。大学の車ということだが、それに1時間弱乗り、大学の外国人向けのゲストハウスに入る。中国らしい設備ではある。

外のレストランに招待される。少数民族のダンスが売り物で、外観も内部の装飾

も東南アジア風にしている。料理も変わったものが出た。生きたヘビをテーブルのところに持ってきて、首にナイフを入れ、血を絞って皿に受ける。さらにナイフを尻尾まで一気に下ろして割く。その血をグラスに分け白酒で割って乾杯する。中国が初めての孝子と美季子にとっては、いきなり衝撃的な歓迎だったかもしれない。白酒は銘柄は湖北省産の稻花香で、なかなかよい。身はぶつ切りにして唐揚げにしたものが、後で出た。ほかにバツタをそのまま揚げたものも出た。

若い男女によるダンスは、タイでも見たのに近い。バンブーダンスもあり、民族的な出自は怪しげである。しかし、バンブーダンスや最後のフォークダンスには客も誘い、楽しい。ぼくもやらされた。西洋人のグループもいた。われわれのテーブルは、われわれ家族3人とWuさんの他、大学関係者が6人ぐらいいた。

3/21(土)

朝起きると、雪が積もっている。キャンパスには桜の並木があり、すでに満開であるが、そこに雪とは珍しい風景である。キャンパスではすでに暖房が閉じられていて、しかも起きてみて気づいたが、外のテラスに通じるガラス入りのドアが、壊れていてきちんと閉まらない。そういう寒さの中で寝たのである。

宿舎は東湖に面していて、雄大な景色である。その周辺が雪で、まさに水墨画の風景が出現している。

9時半にWuさんが奥さんとともに訪れてきて、学内を案内してくれる。人が多い。行楽客だという。桜と雪を見に来ている。写真を撮るものが多い。大学は観光地でもあり、入場も昼は有料とのことである。美季子の靴は穴が開いていて、水がしみ込んで冷たいとぐずついている。

11時半にホテルに戻り食事。12時半に車が来て、旅行ガイドとWuさん共に、三峡下りツアーに出発。車でバスターミナルに行き、そこから大型バスで宜昌に向かう。道の両側の水田地帯に、菜の花が広く植えられていて美しい。

宜昌には予定通り、5時に着いた。かなり大きな町である。港の近くで食事。Wuさんは友人だというこの市の役人に電話し、その人がすぐにわれわれの食事している店に来る。そこでWuさんが慌てて食事をすませ、われわれにはゆっくり食べてくださいと言って、部屋を離れその友人と懇談する。逆にその友人が近くでみかんをたくさん買って、Wuさんに渡す。見事な身の処し方である。

船は6時に出る。ベッドが3つある部屋にわれわれは入る。簡素な部屋である。7

時ごろ閘門に入る。ダムによる高度差を解消する仕組みである。船が三隻入って閉まる。そこで高位の方に水位を上昇させる。なかなか壮観である。

8時半頃、三峡ダムの建設現場を通る。外に出ると寒い。実は部屋の中も暖房はなく寒い。船のトイレは個室間の仕切りがなく、孝子と美季子は用足しをするのに、交代でトイレ全体を見張りながらあわててすます、という状況だった。薄い布団にくるまって、早く寝る。

3/22(日)

朝、3時に起こされる。巫山に着いたという。4時半頃と言われていたのに早い。下船して、マイクロバスで巫山市内の旅館に入る。中国らしい、しかし外国人はあまり泊まらないタイプの旅館である。壁紙が破れ、薄汚れている部屋で、5時半まで仮眠する。5時半に起こされ、朝食。6時15分、バスで出発。小三峡ツアーの船に乗る。まだ暗い。しかし、7時前に船が出る頃には、明けてきた。

出発地点に架かる橋、それに続く竜門峡は、写真によくあるような見事な眺めである。ただ、バスを後ろから降り、船に座った位置が後部のため、屋根に遮られて眺めがあまりよくない。途中で船を降りて歩かされるところが3か所ある。最初のところは浅瀬のため、船を軽くするのが目的だということだった。船が先回りする。歩道沿いにたくさんの店が並ぶ。店といっても広げた布の上に、石やら腕輪やらを並べた、中国のどこにでもあるようなものである。子供もものを売っている。少し上に、住みかと思われるものが並んでいるが、上野のホームレス・テントのようなものである。

2つ目の下船の場所はちょっとした村で、途中で展示館がある。絶壁の中ほどの小さな洞窟に、どのようにして入れられたのか分からない棺があり、それが取り出されて展示されている。漢代のものでいい。この道沿いにも、同じような物売りがたくさんいる。展示館ではスピーカーで騒々しい曲を流している。しかし、目を周囲の田畑に転じれば、桃の花が咲き、早春ののどかな山村風景である。薄日が射し、眼下に溪流が見える。3つ目の下船は社か何かが奥にあって、そこで行き止まり。

滴翠峡に着いて、そこから引き返す。帰りは下りだからかなり速い。途中、急流で大きな波を被り、美季子とぼくはずぶぬれになる。巫山に戻ったら、すでに小雨。

いったん仮眠した宿に戻り、昼食後、長江側の港へ出て、船で奉節へ行く。途中、瞿塘峡を通る。しかし、寒くて長く甲板というより、船室横の船べりの部分だ

が、そこに立ってられない。ガイドの女性(この人はまめで活動的)が運転室に案内してくれて、そこで説明してくれる。

われわれの席の後ろに、女子中学生の4人組がいた。彼女たち、とくにその中の一人が熱心に美季子を見つめている。やがて、きれいな石を2個くれた。席を外していたWuさんにお礼を言ってもらうと、それをきっかけに堰を切ったように話し始めた。とにかく日本人が好きなのだそうである。名前は胡華といい、中学3年生。これからわれわれが行く奉節に住んでいるらしい。いずれ日本語を勉強し、日本に留学したいと言う。一方で、人民解放軍に入りたいとも言っていて、その関係はよく分からない。Wuさんの通訳が間に入っているから、うまく伝わっていないところがあるかもしれない。美季子と写真を撮ったりした。そうしているうちに、反対側の席にいた、小さい女の子を連れた若い女性で、ちょっとあか抜けたところがあるので、香港からの観光客かと思っていたのが、娘と美季子の写真を撮りたいという。聞いてみると女の娘は6歳。可愛い顔をしている。そして、何と彼女は件の中学生たちの先生なのだそうである。

そのうちに、後ろの4人以外の同じ中学生たちが、周りに一杯集まってきた。彼らを先生が引率して、小旅行をしてきたところらしい。集まってきた中に、髭の濃い男がいて、これは物理の先生だという。それが、現在の中国の首相を知っているか、その首相は日本での評判はどうか、中国の教育制度をどう思うか、日中友好をどう思うか、など論争をしかけてきた。これは雲行きが怪しいなと思っていたら、果たして次の質問はWuさんが政治的だと言って訳さず、日本の侵略戦争だか、戦争責任だとかのことだろうと想像された。そこから、この物理の教師とわれわれのガイドさんの論争が始まった。われわれに代わって、この教師の仕掛けた議論に対抗しているのは明らかである。

そのうちに奉節に着いた。ホテルは当県で一流というだけあって、巫山のよりずっとよかった。久しぶりに入浴。

3/23(月)

午前中、白帝城見物。曇りでやはり寒い。白帝城そのものより、ここから眺める長江、瞿塘峡などの眺望が素晴らしい。戻って、11時半の高速艇で、宜昌に向かう。高速艇は確かに速いし、これまで乗った船と比べると、暖かく快適である。4時前に宜昌のダムの手前に着き、そこからタクシーでバス乗り場に向かう。4時のバスが出たばかりで、次は5時発なので、往きと同じレストランで軽く食事。Wuさんが昼食用に買っておいだカップラーメンを、そこで食べる。

武漢までの4時間のバスは、長く感じた。腹の具合が若干おかしいので、余計早く着かないかと思う。往きのバスでもそうだったが、TVがあつて、大きなボリュームで香港映画をやっている。2本上映。高速艇でもそうだった。映画が終わると、ミュージックビデオである。騒々しいことこの上ない。このミュージックビデオも香港製だろう。音はスピーカーから流されるので、聞かない自由はない。「うるさい日本の私」だから驚くことはないかもしれないが、日本の高速バスではまさかこのようなことはやっていないだろう。とくに高速艇で上映された映画の一つは、典型的な暴力映画で、暴力場面の連続である。リンチ、拷問、女の凌辱。こういうものを子供もいるところで公に見せるのは、どういうものか。もう一つの感想は、香港文化のおびただしい流入である。武漢のような、こういつては悪いが奥地にまで、香港映画、香港音楽が侵入している。



瞿塘峡

夜9時半過ぎに、Wuさんの家に到着した。奥さんが大変な品数の料理を用意して、待っていた。とても食べきれなかった。15歳の坊やがいて英語を特に重点的にやっている中学に通っているというだけあって、なかなかちゃんとした英語を話した。発音にアクセントがなく、Wuさんよりよっぽどうまい。顔もお父さんに全然似ていなくて、現代的ないい顔をしている。しかし、はにかみ屋だ。

3/24(火)

午前8時半にまたWuさんが迎えに来て、着いたときに空港から大学まで運んでくれた車と初老の飄々とした運転手で、まず黄鶴楼に行った。この日も寒く曇り空。しかし、黄鶴楼はなかなか楽しめた。眺望もよいし、庭園などの造りもラーメン井ぶり風でなく、落ち着いて好ましい。古楽の演奏も聴いた。

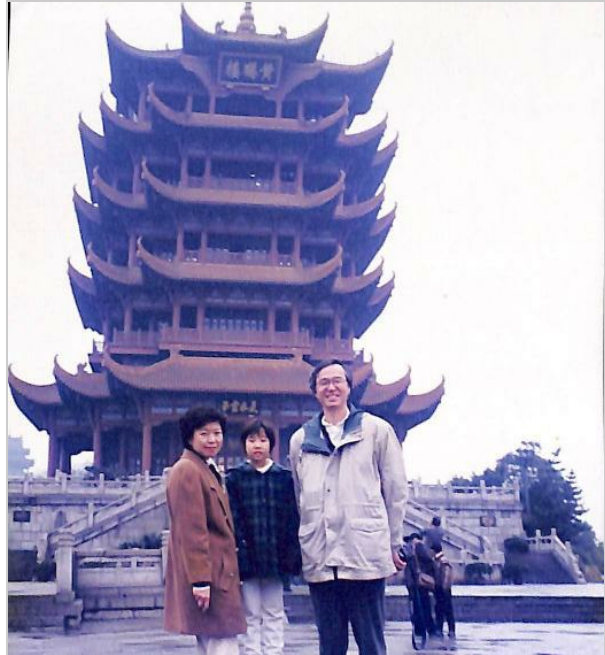
続いて帰元禅寺を訪れる。禅寺というが、道教の影響が色濃い。多くの建物があり、それぞれに仏像を収める。中でも五百羅漢が人気ものらしい。しかし、いずれもあまり感心しなかった。

昼食はWuさんの案内で、毛沢東がよく来たという店に行った。名物は武昌魚で、毛沢東も好んだというが、本物と偽物の見分け方を聞いた。鱗にある星の模

様の数が本物と偽物では違うということだったと思うが、いくつなら本物かという肝心なところは忘れた。もう一つの名物は蓮根で、じゃがいものようにホクホクしている。

午後は講義。この日の聴衆はfaculty memberということだったが、手応えがなかった。オブジェクトの進化の話をしたが、オブジェクト指向の知識そのものがない人も結構いたらしい。こちらの話し方も、今一つうまく行かなかった。

夜はゲストハウスのレストランで宴会。最初の日と同じような顔ぶれで、所長の何さん以下7-8人とわれわれ。ここで稲花秀を呑みすぎた。8時に解散になったが、幸い同じホテル内なので、部屋に戻ってすぐ寝る。夜中に目が覚めて、やや苦しかった。

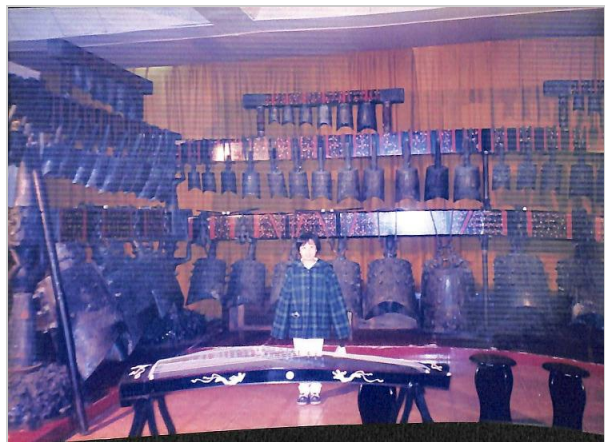


黄鹤楼

3/25(水)

今日も同じように曇りで寒い。ただ、雪の日と比べれば、少しましか。

午前中に講義。今日の聴衆は主に大学院生で、手応えがあった。Formal Approach for Domain Modelingと題して話したが、こちらも少しゆっくりと丁寧に話をした。内容は前に西安でやったのと同じようなもの。質問がかなり出た。



古楽演奏

博物館で

昼はまた宴会である。大学の近くのレス
トランでカラオケ付きの部屋。孝子と美季子は昨日に続いて、何先生の奥さんが
連れ出している。面白いことに、何夫人とWuさんは連絡を取ってなくて、この
昼の宴会に大学側は孝子や美季子も呼ぶつもりが、徹底していない。孝子は11
時半頃ホテルに戻るつもりだと言っていたが、Wuさんが迎えに行ってもなかなか帰っ
てこない。大方、何さんが昼飯を誘っているのではないかと思ったが、12時10分ご
ろ、ようやくWuさんが二人を連れてきた。その間、皆はカラオケを楽しんでいる。
皆、音程は相当に怪しいが、音量はすごい。

おびただしい料理が出た。しかし昨晚飲みすぎたせいで、胃腸の調子が今一つ。
あまり食が進まない。まして、乾杯には閉口した。さすがに皆も、今日はあまり飲
まなかった。1時半に解散。宿に戻って荷造りが大変である。午前中、博物館に
行った孝子が、お皿などかさばるものをかなり買いこんでいる。何夫人やWuさん
にもらった掛軸などもある。荷造りをしている間、Wuさんは待ってくれている。2時半
出発。Wuさんが同乗して空港まで。来るときに着いたのは別の、新しい空港で
ある。

この6日間、Wuさんはずっとつき合ってくれて、さぞ草臥れたことと思う。献身的な
世話であった。多謝。2時間20分遅れでようやく便が出る。

上海に着いて、予約しておいた和平飯店にチェックインした。やはり武漢とは別世
界である。トイレ、浴室に一番の差があるが、空調、ベッドなどあらゆるファシリティ
が違う。巫山の薄汚い旅館で仮眠したのも一つの経験ではあったが、やはり贅沢
を味わうと手放せなくなるものだ。

美季子は感心なことに、どんな高級な場所でも、またその逆にひどく粗末なところ
でも(といっても本当のスラムのような場所を経験しているわけではないが)、たじろ
いなり構えたりしない。自然に振舞うし文句も言わない(しかし、後で聞いたところ
では、最初のうち武漢では、早く帰りたいと思ったという)。

夜、9時半ぐらいにホテルの8階の和平庁で遅い夕食を摂った。窓際の眺めのよい
テーブルだったが、ここでも食はあまり進まなかった。部屋に戻ったら、居先生から
電話が入った。3/27に講演を予定していたらしいが、それは無理と断る。とにかく、
3/26に会うことにする。

3/26(木)

ゆっくり起き、2階のコーヒーハウスで朝食を撮ろうと思ったが、開いていないのでルームサービスを取る。それから豫園に行く。さすがに観光客が多い。1時間ほどかけてゆっくり庭園を見た後、緑波廊酒店で食事。ここで食べたエボダイのような魚は旨かった。



豫園(2)



豫園(1)

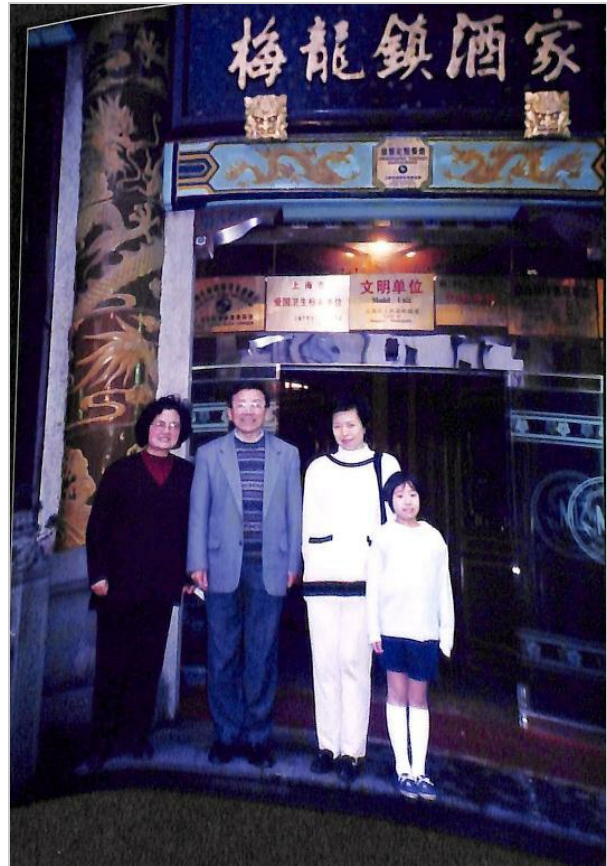


上海外灘

ホテルに戻り、居さんとは5時に会うことになる。それまで友誼商店で買い物。ホテルに戻って居夫妻と待ち合わせ、梅龍鎮酒家で豪華な料理をご馳走になった。ここは何度か来ているが、やはり洗練されている。繁盛してずいぶん手を広げているらしい。ただ、チェーンとして吸収された他の店や、向かいの新しい伊勢丹との共同ビルにある新店は、味が落ちる、というより全然違うという。

3/27(金)

帰国の日. 今日も雨模様で, とうとう天気には恵まれなかった.



梅龍鎮酒家